

■研究推進委員会 活動計画書

提出日：2022年11月30日

名 称	生態工学研究推進委員会
委員長	氏名（所属）：大澤啓志（日本大学）
幹 事	氏名（所属）：徳江義宏（日本工営（株）） 連絡先（e-mail アドレス）：a6439@n-koei.co.jp
その他 構成員	氏名（所属）： 板垣範彦（いきものランドスケープ）、井上剛（（株）エスアイエイ環境事務所）、裏戸秀幸（横浜市）、勝野武彦（日本大学名誉教授）、亀山章（（公財）日本自然保護協会）、倉本宣（明治大学）、黒田貴綱（日本大学）、園田陽一（国際産業技術専門学校）、趙賢一（（株）愛植物設計事務所）、中村忠昌、春田章博（春田環境計画事務所）、日置佳之（鳥取大学）、宮本渉、森本幸裕（（公財）京都市都市緑化協会）、八色宏昌（景域計画（株））、養父志乃夫（和歌山大学）、渡邊敬太（大成建設（株））
目 的	生態工学の技術の体系化と普及活動
活動計画 及び 想定される 成果 (1年目)	<p>1. 活動計画</p> <p>(1)2023年度日本造園学会全国大会ミニフォーラムの企画・運営 2023年度日本造園学会全国大会ミニフォーラムにおいては、生物多様性技術指針策定に向けて、公園緑地の工事工種体系の工事種別に基づいた生態工学のクリティカルな技術や技術要素を抽出した上で議論を深める。これらの成果から、生物多様性技術指針の出版に向けた準備を進める。</p> <p>(2)「生きもの技術ノート」および「用語解説」の企画編集 昨年度に引き続き月に1回の研究推進委員会を開催し、学会誌に連載中の「生きもの技術ノート」(年4回)および「用語解説」の企画立案、編集作業を継続的に実施する。</p> <p>2. 想定される成果 生物多様性技術に関して、生態工学的アプローチにより研究を進めることで、ランドスケープ分野における生物多様性の技術体系の構築および実務分野における技術的活用が期待される。 また、学会誌を通じて生態工学に関わる技術的事例および最新の関連用語に関する情報提供を学会員に対して行い、あわせて、出版活動を通じて、生態工学に関わる学術と技術の体系化および普及が図られることが期待される。</p>
(2年目)	<p>1. 活動計画</p> <p>(1)2024年度日本造園学会全国大会ミニフォーラムの企画・運営 2024年には生物多様性技術指針の出版を予定している。ミニフォーラムでは出版した生物多様性技術指針の現場での活用普及、また生物多様性国家戦略などの関係する取り組みにおける活用などを議論する。</p> <p>(2)「生きもの技術ノート」および「用語解説」の企画編集 昨年度に引き続き月に1回の研究推進委員会を開催し、学会誌に連載中の「生きもの技術ノート」(年4回)および「用語解説」の企画立案、編集作業を継続的に実施する。</p> <p>2. 想定される成果 生物多様性技術の出版によって、生物多様性にかかわる技術が広く現場へ普及する。 また、生態工学に関わる技術的事例および最新の関連用語に関する情報提供を学会員に対して行うことを通じて、生態工学に関わる学術と技術の体系化および普及が図られることが期待される。</p>

